

## 第 5 回 支援機関を通じた中堅・中小企業等の

### DX 支援の在り方に関する検討会 議事要旨

【開催日時】2024 年 1 月 15 日(月) 14:00～16:00

【開催場所】オンライン会議(Teams)

#### 【委員出席状況】

| 出席者(敬称略)   | 所属                                             | 備考 |
|------------|------------------------------------------------|----|
| 三谷 慶一郎(座長) | 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 主席研究員<br>エグゼクティブ・コンサルタント |    |
| 井川 浩二      | ふくおかフィナンシャルグループ ソリューション<br>事業本部副本部長            |    |
| 岡田 浩一      | 明治大学経営学部教授                                     | 欠席 |
| 田口 潤       | 株式会社インプレス 編集主幹<br>兼 IT Leaders プロデューサー         |    |
| 中尾 克代      | DX 経営研究所代表取締役                                  |    |
| 宮村 和谷      | PwC Japan 有限責任監査法人 執行役                         |    |
| 武藤 元美      | 福岡情報ビジネスセンター 代表取締役                             |    |

#### 【プレゼンター】

| 出席者(敬称略) | 所属               | 備考 |
|----------|------------------|----|
| 中谷 健二    | 埼玉縣信用金庫          |    |
| 阿部 匡伸    | 岡山大学             |    |
| 松島 桂樹    | 公益財団法人 ソフトピアジャパン |    |

#### 【議題】

1. 開会
2. 外部有識者によるプレゼンテーション・質疑応答
3. 討議
4. 閉会

## 【配布資料】

資料 1 議事次第

資料 2 委員等名簿

資料 3 埼玉縣信用金庫 中谷様 プレゼンテーション資料

資料 4 岡山大学 阿部様 プレゼンテーション資料

資料 5 ソフトピアジャパン 松島様 プレゼンテーション資料

## 【議事要旨】

### 1. 開会

- 事務局より出席者・注意事項確認及び運営ルールの説明

### 2. 外部有識者プレゼンテーション①

資料③に基づき埼玉縣信用金庫 中谷氏によるプレゼンテーションが行われ、その後、以下のような討議が行われた。

- 支援先企業には、オンライン環境でのリモートの支援ではなく、支援先企業と面会し、直接顔を合わせて支援を実施する方が受け入れられやすいため、支援機関との連携を考える際、連携先が実際に支援先企業と直接会って支援することが可能であるかどうか、を重視している。
- 小規模事業者にとって、レガシーシステムの更新等、足元のデジタル化が出来ておらず、DX 推進で達成する大きなゴールを設定することはなかなか難しいと感じるため、小規模事業者の支援はスモールスタートで行っている。業種や企業規模で細分化されたステップがあれば、各ステップの定義に沿って目標達成に向けて計画を立てやすい。
- 企業のデジタル化の進捗を簡易的に測る DX 診断シートを作成し、インターネットや自社の営業経由で企業に活用を促すことによって、DX 支援に役立っている。700 社を超える企業が利用しており、インボイス制度や勤怠管理、顧客管理の支援相談が多い。業種に制限は無いが、製造業、運輸業、建設業が多い。企業規模が 3～5 名程度では DX の効果が出にくいこともあり、10 人前後の規模が最多である。今後、より大規模な企業や事業承継が完了している企業をターゲットに向けて、新たな DX 診断シートを作成する予定である。
- ガイダンスには、DX 支援の事例共有を期待したい。地方銀行の事例はあるが、信用金庫と比べ支援先の企業規模も大きく、レベルの高い支援を行っているため、信用金庫と同等規模の事例を参照出来るようになると良い。
- これまでは首都圏という地盤に頼っていた部分はあるが、今後、首都圏であっても人口のピークアウトは起きうることであり、このままでは、地域企業の成長なくして地域金融機関は成長しない、との危機感を地方銀行は持っている。

### 3. 外部有識者プレゼンテーション②

資料④に基づき岡山大学 阿部氏によるプレゼンテーションが行われ、その後、以下のような討議が行われた。

- 大学は教育の場であるため、学生が自発的に活動を実施するよう、興味を引く授業テーマを大学側が

設定することが重要である。

- DX は現場の課題解決が重要であり、大学外で活動を行う必要がある。学生は SDGs などへの意識が高く、企業との連携を学生の立場で行うことで、どのような支援が可能となるかを学ぶことが出来る。
- 大学が中堅・中小企業等に対して DX 支援のためのコンソーシアムを組成し、DX 支援を実施している例は、岡山大学以外に多くはないと思っている。
- 中堅・中小企業は県内に 5～8 万社あるが、その中で大学と関係のある企業は 100 社程度しかなく、これは産学連携できている企業がごくわずかであるということを示していると思う。より産学連携事例を増やすべく、企業とつながりの深い支援機関を通じて、大学と企業の接点を増やす活動を実施している。
- 大学内 DX は一般企業においても同様の流れだと思うが、一般企業では個別最適から全体最適に移行し、効率化の成果であるリソースの余裕を捻出することが難しく、目下の課題であるように思う。

#### 4. 外部有識者プレゼンテーション③

資料⑤に基づき公益財団法人ソフトピアジャパン 松島氏によるプレゼンテーションが行われ、その後、以下のような討議が行われた。

- 岐阜県内すべての中小企業がデジタルインボイスを活用し受発注システムの効率化を図る「岐阜モデル」を構築中であるが、この岐阜モデルが銀行の一サービスとして展開し、金融機関の金融サービスにつながっていくことを期待している。
- コンソーシアムの収益源は、県の補助金以外にコンソーシアムの参加団体の一定のコミットを求めるため、安価ではあるものの参加企業からの会費を徴収している。
- 面的支援のハブとしての中央会は、地域によって影響力が異なる。県内の大きな投資情報を持ち、かつ、様々な団体の取りまとめを行っている地域もあれば、連携がうまくいっていない地域もある。
- 例えば全銀 EDI サービスなど、スケールしていない既存サービスの活用を広げるためには、国規模で取り組むよりも地域規模の方が考えやすいと考えており、地域ごとの特性を理解して推進する必要があると思う。

#### 5. 諸連絡・閉会

- 事務局より今後の進め方について説明
  - ・ 次回以降の検討会は、第 6 回を 2 月 6 日、第 7 回を 2 月 15 日、第 8 回を 2 月 26 日、第 9 回を 3 月 15 日にそれぞれ予定しており、第 6 回以降は、対面とオンラインのハイブリッド形式で議論を実施する予定。
  - ・ 第 6 回では、主要論点及び各論について議論を実施する予定。

以上